

第3回 伏見出張所管内河川レンジャー運営会議 議事要旨

開催日時 : 平成 17 年 12 月 1 日 (木) 13:00 ~ 15:00
場 所 : 淀川河川事務所 伏見出張所 別館 2 階 会議室
参加人数 : 運営会議委員 8 名、オブザーバー 2 名、事務局 7 名、傍聴者 10 名

1. 決定事項

平成 18 年度の京都伏見ジュニア河川レンジャーは、対象校の地域特性に応じた活動を行なうため、松岡河川レンジャーが担当している伏見三栖自然観察会と連携した活動を行なう。

2. 第3回検討懇談会への報告事項

河川レンジャーの知名度を高め、周囲に活動を認識してもらうため、活動の際に立てるのぼりや河川レンジャーの名刺が必要であると考えられる。

3. 懇談会の概要

「第3回 伏見出張所管内河川レンジャー運営会議」について

事務局より委員の紹介および資料の確認が行われた。その後、栗山委員（運営会議代表）より第3回運営会議の開催に際しての挨拶が行われた。

平成 17 年度河川レンジャー活動の経過報告

永山河川レンジャーおよび松岡河川レンジャーにより、「資料 - 1 平成 17 年度河川レンジャー活動の経過報告」を用いて、平成 17 年度河川レンジャー活動の経過報告が行われた。

河川レンジャー活動に対する助言・意見

永山河川レンジャーおよび松岡河川レンジャーからの活動経過報告を受けて、永山座長の司会のもと、委員によって経過報告に対する意見交換が行われた。主な意見については「3. 主な意見」を参照。

3. 主な意見

<京都伏見ジュニア河川レンジャーについて>

クリーンアップ活動で拾ったゴミは各小学校に持ち帰ってもらっているが、電車で活動場所まで来る小学校もあるので、参加者の負担にならない処理方法を考えたい。

自分で拾ったゴミを自分で持ち帰るということも学習の一環であると考えられるが、依頼があれば京都府としても協力したい。

現在、活動についての認識が参加校の校長と担任に限られているように感じる。毎年継続する活動なので、学校全体で理解してもらえるようにしたい。

教職員の研修の場で河川レンジャーや活動について説明することができれば、認識が高まると思う。

京都府では川についての出前講座も行なっている。研修の場での講習など、必要があれば声をかけてほしい。

京都伏見ジュニア河川レンジャー活動に不参加の小学校は、宇治川左岸の向島地区に多い。原因として、活動場所が右岸側の濠川・宇治川派流であることが挙げられると思う。来年度からは、対象校の立地と活動の場所が一致した企画を立てる必要があるのではないか。

向島地区の住民にとっては、松岡河川レンジャーが同地区で行なっているツバメの営巣地観察のほうが親しみやすいと思う。

来年度は、それぞれの地域特性に応じた活動とするため、松岡河川レンジャーと連携した活動を行いたい。

以前は、宇治川の河川敷は遊び場で、川では魚やシジミなどを採ったりすることができ、川が生活に溶け込んでいた。同時に、堤防が決壊するなど、川の脅威を感じていた。今後は、スポーツ施設など特定の人を対象とするのではなく、皆が日常的に川と関わる環境に戻すための整備をするべきだと思う。地元で美化活動をしてもらう場合、郷土愛のある人がいれば、一時的には盛り上がるが、継続はしない。川への愛着心が地域に根付くことが必要だと思う。京都伏見ジュニア河川レンジャーのように継続して活動を続け、年を重ねることで愛郷組織をつくってほしい。

<十石舟・水難訓練見学会について>

十石舟・水難訓練見学会に参加したが、子どもの見学者が少ないと感じた。水難訓練を見学できる機会は限られているので、見学は学校活動の一環として行い、多くの子どもに見てもらいたい。

学校活動の一環として行なうには、活動の企画と広報について詳細に検討し、活動について学校に理解してもらうことが必要だと思う。今後は京都市消防局や学校との連携を深めていきたい。

地域住民で構成している水防団も定期的に水防演習を行なっているため、継続的にそのような活動を子ども達に見てほしいと思う。

<伏見三栖自然観察会について>

第5回伏見三栖自然観察会に参加したが、河川レンジャーが主催しているということが分かりにくかったように思う。

「河川レンジャー活動」と書かれたのぼりを立てることで、参加者や活動を見かけた人から河川レンジャー主催であることがわかる。河川レンジャー活動の認知度が高まれば、河川レンジャーを共通項として他活動との横への広がりが望める。

<山科川周辺改善懇談会について>

山科川清掃活動への地元からの参加者は、特定の団体からの14名のみである。地元へは、どのように広報を行なったのか。また、数年にわたって活動を継続することで、地域住民の意識はどのように変化しているのか。

特定の団体に所属していない地域住民に対しての広報は行なっていない。地域住民は山科川にみられる諸問題を認識しているようだが、それが自分たちで解決していく問題であるという意識は薄いと思う。

山科川周辺改善懇談会の改組にあたって、地域住民から懇談会を率先できる人が見つからないことは、どこに要因があると考えているのか。

地域をよりよくしたいという想いは、河川レンジャーと現在の懇談会で中心となっていて、自治連合会長とも同じであるが、今後の維持管理を見すえ、若い人を中心に活発な議論をもって地域整備を進めていきたいと考えている。人材の発掘については、現在、検討を進めている。

山科川上流の地域では、地域住民の積極的な働きかけにより散策道や花壇を京都府が整備し、維持管理は地域住民で行なうという具体的な動きがある。地元の意見がまとまっていれば、行政は協力しやすい。人材の発掘には既存の組織を利用することが考えられる。また、対象地区の周辺で整備が進めば、対象地区でも進展しやすい。

地域整備を推進するには郷土愛のある人が必要だが、見つけるのは難しい。

現在は、山科川周辺の諸問題について、地域住民の関心は低いように思う。停滞している山科川周辺改善懇談会を、地域を巻き込んで盛り上げていくためには、起爆剤となるイベントが必要だと思う。

< 地域住民が中心となった河川の維持管理について >

濠川・宇治川派流域は年2回の草刈りを行なっているが、さらに1回の草刈りを追加すれば年間を通してきれいな遊歩道になる。個々の地域住民から（株）伏見夢工房に草刈りの要望もきており、自主的に行なっている人もいるが、民間でやるには難しい部分もある。河川管理者としての理想はどのような形態なのか。

京都府では、維持管理の水準に応じて実施しているが、草刈りの回数はできるだけ増やしたいと思っている。地域として、年に数回程度の除草を取り組んでいただくのが望ましい。美化団体や愛護団体が組織されている河川は多く、連絡をいただいている地域とは一定のパートナーシップを構築できている。

河川美化は住民の間で温度差があり、押し付けでは住民間に摩擦が生じる。伏見と水は深いつながりがあり、伏見地区の小学4年生の地域総合学習で継続して「伏見と水」というテーマをとりあげられれば、郷土愛が育ち、継承されていくと思う。